

2009年度第3四半期業績の概要

株式会社 三井住友フィナンシャルグループ

2010年2月8日

本資料には、将来の業績に関する記述が含まれています。こうした記述は将来の業績を保証するものではなく、リスクと不確実性を内包するものです。将来の業績は、経営環境に関する前提条件の変化等に伴い、予想対比変化する可能性があることにご留意ください。

この文書は、いかなる証券についての投資募集行為の一部をなすものではありません。この文書は、日本国内外を問わず投資勧誘等を目的として作成されたものではなく、また、米国における当社株式についての投資の募集、購入の勧誘行為の一部をなすものではありません。当社は当社普通株式について、1933年米国証券法に基づいて証券の登録をしておらず、また、登録を行うことを予定しておりません。米国においては、1933年米国証券法に基づいて証券の登録を行うかまたは登録義務からの適用除外規定に従う場合を除き、証券の募集または販売を行うことはできません。

1. 2009年度 第3四半期業績

SMFG連結四半期純利益（累計）は、2,478億円と、前年同期比+1,644億円の増益、09年度通期予想対比では約113%の進捗。

| | | 09年度 修正予想 <期初予想> (a) | 09年 4-12月 実績 (b) | 前年 同期比 | 進捗率 (b)/(a) |
|------------|------------------|-------------------------------|---------------------------|-----------|----------------|
| SMBC 単体 | 業務粗利益 | 14,450 <14,450> | 10,740 | ▲782 | 74.3% |
| | 経費 | ▲6,950 <▲6,950> | ▲5,135 | △114 | 73.9% |
| | 経费率 | 48.1% <48.1%> | 47.8% | △0.3% | |
| | 業務純益*1 | 7,500 <7,500> | 5,605 | ▲668 | 74.7% |
| | 与信関係費用 | ▲3,400 <▲3,800> | ▲1,806 | △960 | 53.1% |
| | 株式等損益 | | ▲3 | +1,063 | |
| | 経常利益 | 3,300 <3,100> | 3,301 | +1,070 | 100.0% |
| | 当期純利益／ 四半期純利益 | 2,000 <1,800> | 2,499 | +1,294 | 125.0% |
| SMFG 連結 | 経常利益 | 4,900 <5,100> | 4,480 | +1,716 | 91.4% |
| | 当期純利益／ 四半期純利益 | 2,200 <2,200> | 2,478 | +1,644 | 112.6% |

✓ 経費削減への取組みを一段と強化

✓ 政府の景気対策効果
✓ 取引先の状況に応じたきめ細かな対応
✓ 取り組んできた成果
✓ 海外マーケットの状況改善、等

✓ 株式売却益の計上（三洋電機優先株等）
✓ 株式相場改善に伴う減損額の減少

✓ 10月に完全子会社となった日興
コーディアル証券の寄与
✓ 大和証券SMBCの損益が改善、等

連結業績予想

- 経営環境等、今後の動向を見極める必要があること等から、09年度通期業績予想についての変更はございません。

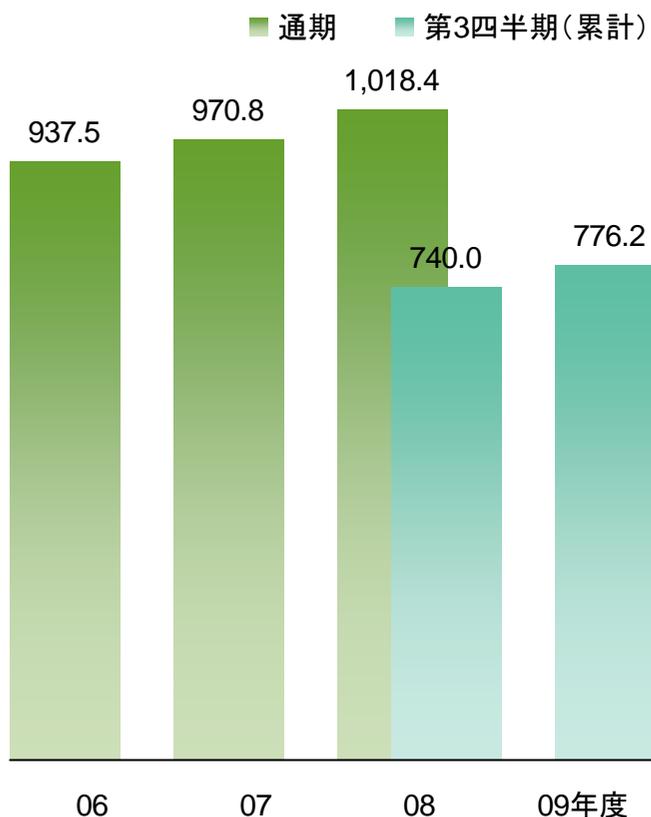
*1 一般貸倒引当金繰入前

2. SMBC単体 業務粗利益(資金利益)

資金利益：前年同期比+362億円増益の7,762億円。

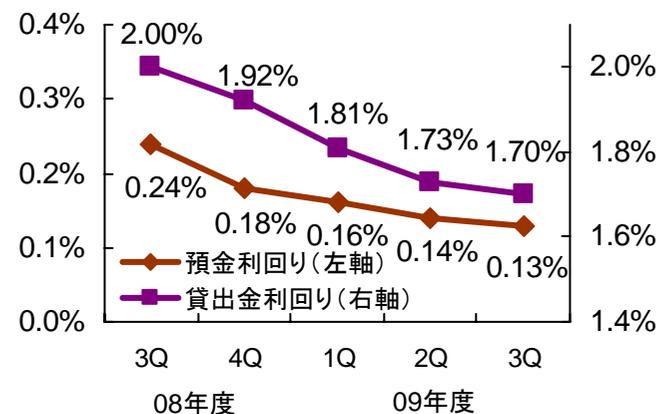
資金利益

(10億円)



参考

国内預貸金利回り推移

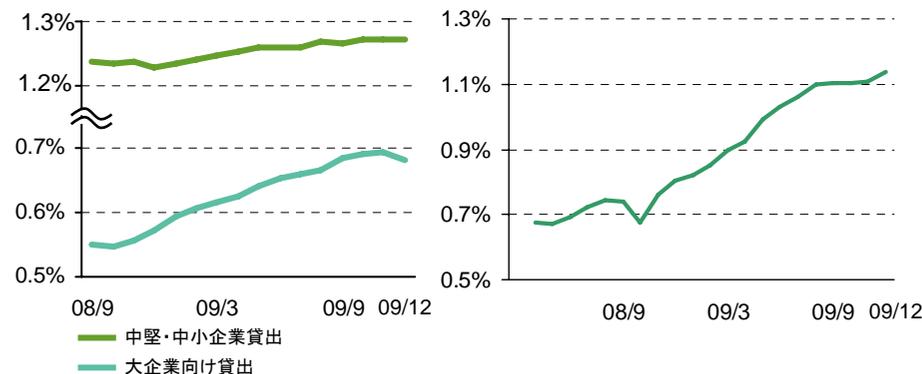


参考

貸出利鞘(行内管理ベース)

国内企業向け

海外企業向け*1



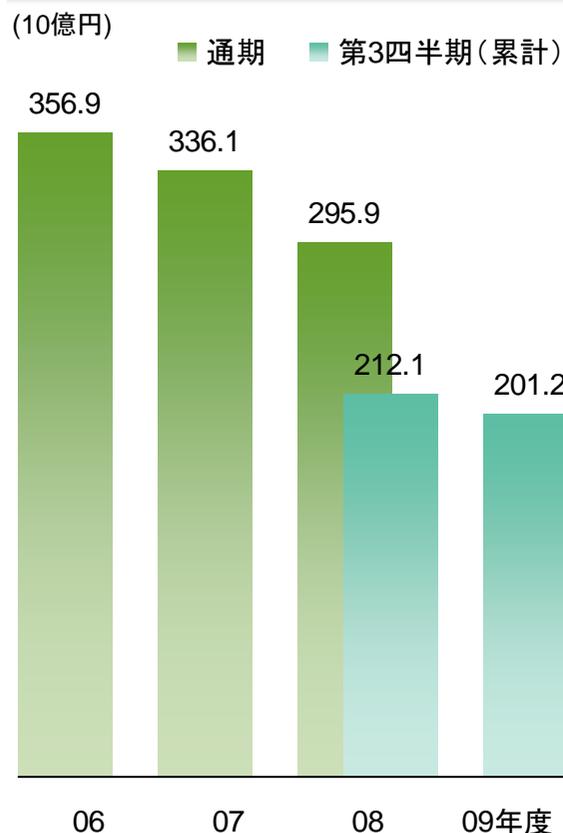
*1 SMBC単体、欧州三井住友銀行、三井住友銀行(中国)の合計。

(SMBC単体)

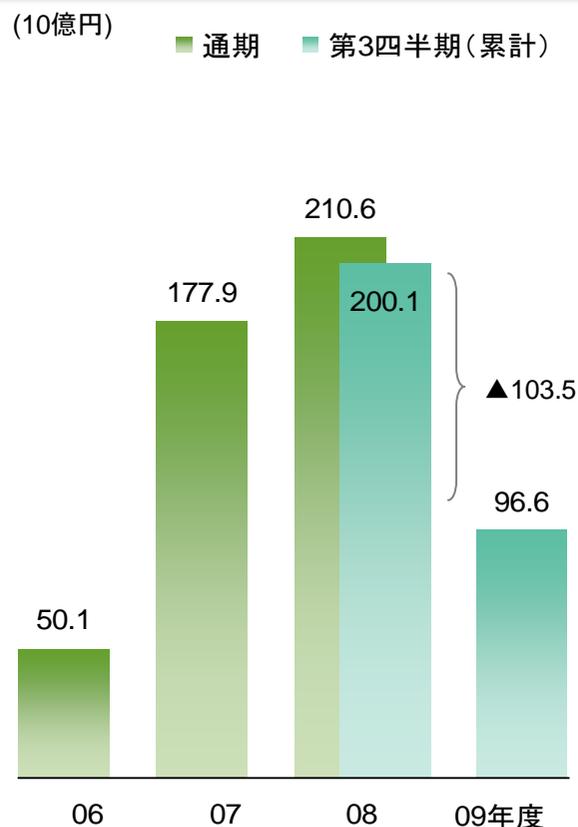
3. SMBC単体 業務粗利益(役務取引等、特定取引+その他業務)

役務取引等利益+信託報酬：投信販売取扱手数料が増加した一方、国際部門の貸金関連手数料等が減少
 特定取引+その他業務利益：外為関連収益、トレーディング収益等の悪化を主因に減少

役務取引等利益+信託報酬



特定取引+その他業務利益



参考 前年同期比の主な減益要因

- 外為、デリバティブ関連 約▲300億円
収益の減少(対顧客)
- トレーディング収益の減少(市場営業部門) 約▲400億円
- 金融派生商品収益の減少(CDS評価益の減少等) 約▲300億円

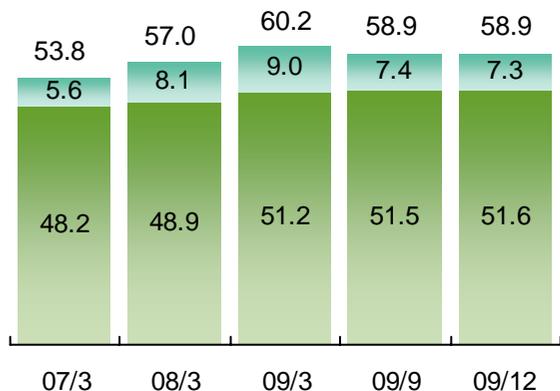
(SMBC単体)

4. 2009年度 第3四半期 B/S関連

貸出金残高

(兆円) (SMBC単体)

- 海外店分及び特別国際金融取引勘定分
- 国内店分(除く特別国際金融取引勘定)



不良債権残高及び同比率*

(10億円) (SMBC単体)

- 不良債権残高
- 不良債権比率

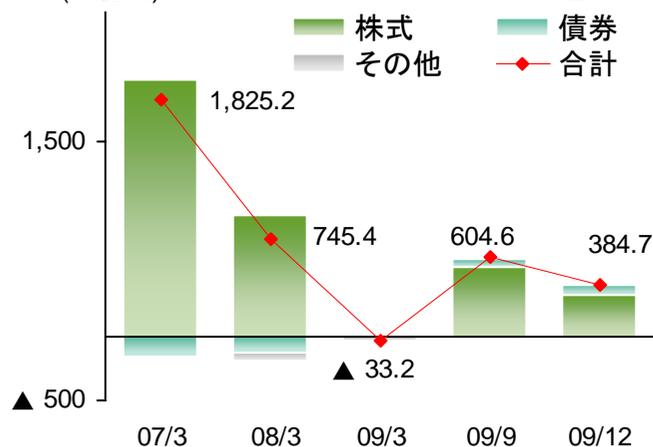


* 不良債権比率=金融再生法開示債権残高(除く正常債権)/総与信

その他有価証券評価損益

(10億円) (SMFG連結)

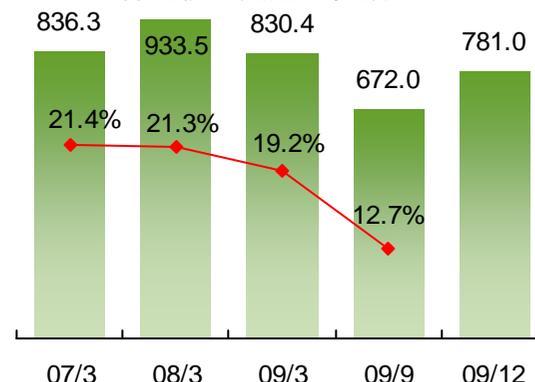
- 株式
- 債券
- その他
- 合計



繰延税金資産純額

(10億円) (SMFG連結)

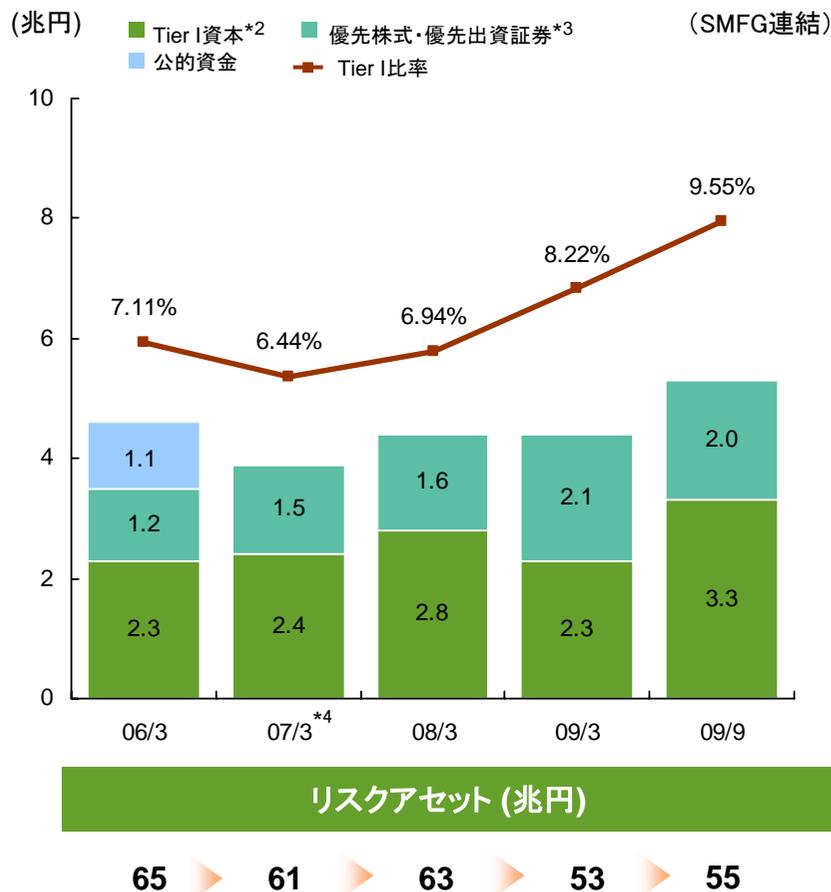
- 繰延税金資産の純額
- 繰延税金資産の純額/Tier I



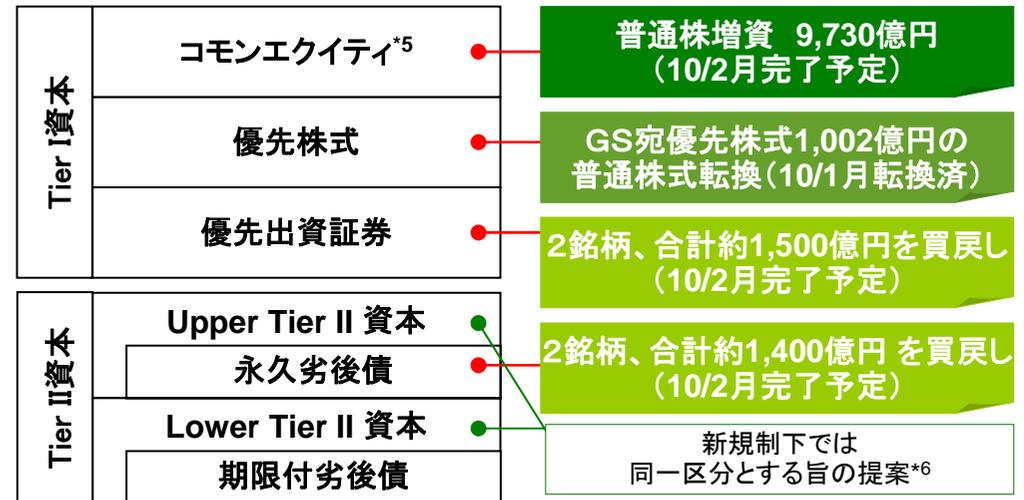
(参考1) 資本

「強靱な資本基盤の構築」に向けて、発行価額の総額9,730億円の普通株増資に加えて、資本性証券の買戻し、ゴールドマン・サックス・グループが保有していた優先株式の普通株式転換等、複数の施策をパッケージで推進

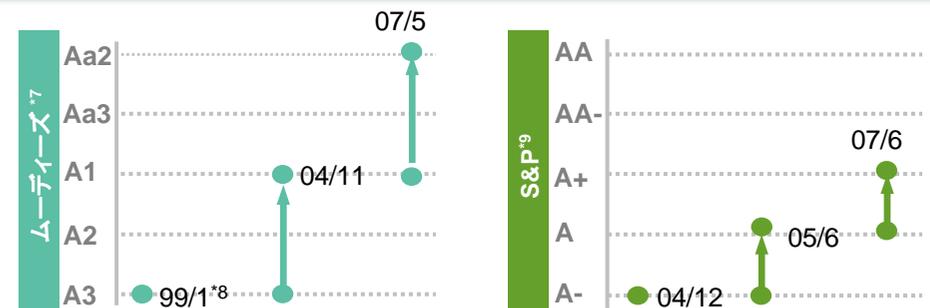
Tier I比率*1



強靱な資本基盤の構築



格付(三井住友銀行)



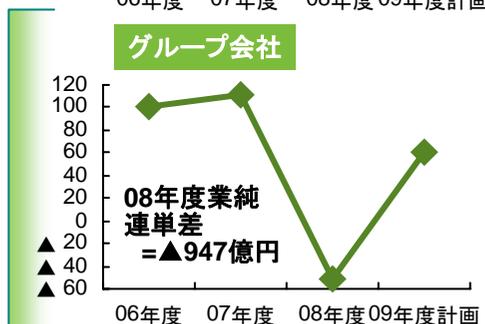
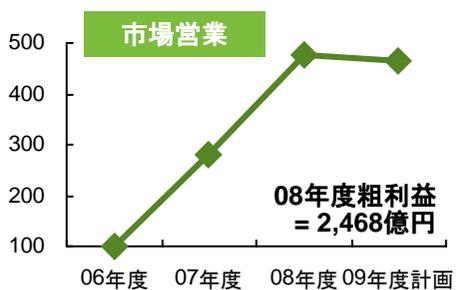
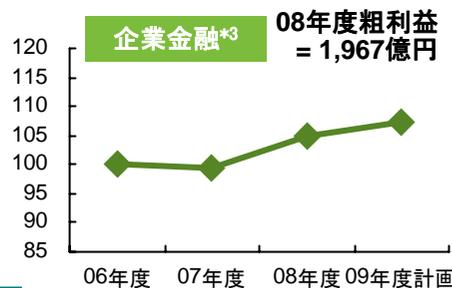
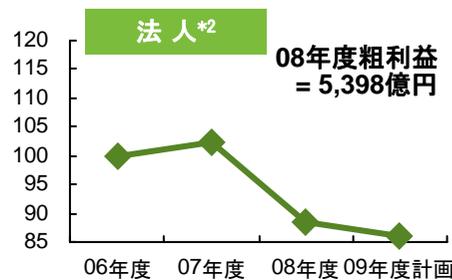
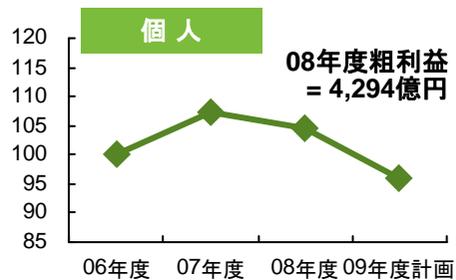
*1 06/3末: パーゼル I ベース、07/3以降: パーゼル II ベース
 (信用リスク: 07/3末及び08/3末 基礎的内部格付手法、09/3末 先進的内部格付手法、オペレーショナルリスク: 07/3末 基礎的手法、08/3末以降 先進的手法)
 *2 除く優先株式・優先出資証券及び公的資金
 *3 除く公的資金 *4 06年10月、公的資金完済

*5 パーゼル委員会によって定義される、普通株式及び内部留保を中心とした資本。
 *6 パーゼル委員会による市中協議文書(09年12月17日)
 *7 発行体格付
 *8 長期自国通貨建発行体格付(住友銀行)
 *9 長期自国通貨建発行体格付

(参考2) 部門別実績

基本原則に則った業務運営の徹底により、守りを固めつつ、着実な成長を目指す。
09年10月には、日興コーディアル証券を100%子会社化。

業務部門別計画*1



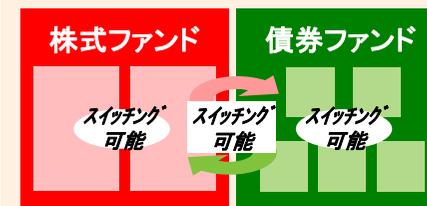
参考

日興コーディアル証券の実績

| (億円) | 09年10-12月実績 |
|------------|-------------|
| 純営業収益 | 453 |
| うち 投信募集手数料 | 175 |
| うち 引受手数料 | 50 |
| 経常利益 | 94 |
| 当期純利益 | 61 |

(注) 旧・日興と合算した09年4-12月の実績は、純営業収益1,297億円、経常利益307億円、当期純利益376億円。

SMBCとの共通取扱い投資信託



純資産総額 約4,400億円*4

債券ファンド:
2009年度最大の設定額*4

日本社債アレンジャーランキング (09年10-12月)

| | |
|---------------|---------|
| リーグ テーブル*5 | 1位 |
| 引受額 | 6,452億円 |

*1 期初計画。06年度実績を100として指数化。

*2 中堅・中小企業 *3 大企業 *4 09/12月末時点。純資産総額はSMBCと日興コーディアル証券取扱い分の合計額。

*5 出所: トムソン・ロイター。日興コーディアル証券における実績は三井住友フィナンシャルグループに集計されている。

(参考3) 新たな金融秩序における取組み

国際的な自己資本規制のフレームワークが明らかとなる中、新たな規制・競争環境においても持続的成長を実現できる体制を逸早く構築してまいります。

